

国際貿易理論

市田 敏啓 准教授

1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

教員は国際貿易の経済学理論を研究している。とくに、国際貿易と労働市場の関連(多次元にスキルがある労働者の転職と貿易自由化の影響、グローバル化の進展と非正規雇用との関連、人的資本投資と貿易など)や国際貿易と特許制度などのトピックについて数学モデルを駆使した経済理論でアプローチしている。基本的にはミクロ経済学や産業組織論の理論の応用分野としての国際貿易の研究である。

2) 指導方針

教員本人は実証研究はあまりやらないが、修士課程の学生が理論経済学を研究するほど数学の実力が追い付いていない場合には、ほかの先生方の力を借りながら実証研究論文を書く学生の指導も行うつもりである。修士課程の学生は1年目に商学研究科のコア科目の「国際貿易論」を受講し、かつ、(学部時代に受講していないものは)学部開講の「国際貿易論」と「国際貿易理論」で優秀な成績を収めなければならない。学部の授業を義務化している理由は、大学院の授業よりも学部の授業のほうが広い範囲をカバーしているために、より学生の興味にあったトピックを見つけやすくするためでもある。修士の2年目には簡単な理論モデルと実証研究の両方を兼ね備えた修士論文の執筆を行うことが期待されている。そのためには修士時代に英語で書かれた書籍や論文などを教員と一緒に読み進めていくことが必要である。大学院の授業なのであるから、学部時代とは違って、学生たちが自主的に勉強を進めていくことが期待されている。

3) 学生に対する要望・その他

修士課程の学生には経済学の博士課程で学ぶレベルの経済理論(たとえば標準的な上級ミクロ経済学の教科書『Microeconomic Theory』 Mas-Colell, Whinston and Green レベル)の理解までは求めないが、学部レベルの中級ミクロ経済学が90%以上理解できていないと本研究指導に応募する資格はない。それを証明する方法としては、学部時代のミクロ経済学(あるいは早稲田大学商学部で市田の教える国際貿易論)の成績が A, A+であるか、ERE や GRE Economics などの公的試験の点数などが一定程度あれば構わない。それらの成績や点数がそろわない人には個別に教員から試験を課して、合格点をとったものだけが研究指導を受けることができる。